

- 1 ゆるされはじめる梅だいつかわすれてしまう孤独だ
- 2 きれいになれるまほうなれないしあわせ雲雀が陽をよぎる
- 3 ぶらんこを立ちながら光の中へ出る
- 4 ゆらめく蜂たち息をしようとしてする息のおもたさ
- 5 しずかで傘もあります流水のあめあがりはいまから
- 6 またはないけどまたねと言えばクレソンの盛りでしょう
- 7 おぼえることは愛だったかなこれからすきなだけ桜
- 8 目覚めても夏にいる骨に皮膚のうすさ
- 9 ほんのすこしの青田です予言にはもう飽きたので
- 10 そのままわたしを撃てよそのまま鳶が青くて鋭利
- 11 抱き込んでそのぶん川床が晴れていること
- 12 せかいの未来みたいでした赤い金魚に泣いたりしてて
- 13 さんざんくらげ嘘ならきつとあたらしかった
- 14 まぶしく昼寝触れてさみしくなりましょう
- 15 そして噴水いまだけ会えるからだでも
- 16 玉ねぎさらす脳をわすれるための脳
- 17 なのにもだれている夏野さよならはじょうずでしたか
- 18 しゃわーあびますひとりはずっとだめだったので
- 19 火花が落ちきって湖のない町でした
- 20 砂浜の砂がおいしい秋雨のそとがわで
- 21 曇りなのにあかるいね新涼をレジ袋飛ぶ
- 22 濡れたけど桃だよあしたも夜来るね
- 23 血はほんものそのままおわるかなひややかな陽がとおる
- 24 住めばあかるい秋風のあとのゆらめき
- 25 さみしいりんごありますよいまは今っばいから

- 26 星のささやかな音すべりだいに世界がほそい
- 27 ひどく水が澄んでいることたとえば馬へ明けてくれますか
- 28 月がひかりをもつてくる居たようにみえたけど
- 29 夜食もう小雨が終わりそうに雨
- 30 牡蠣過去未到ただしひとでありかすけーど
- 31 やさしさをわかってしまう枯園を出て
- 32 めりーくりすますゆびにゆがんでゆく鋏
- 33 北風がつづかない水道水もおいしくて
- 34 つめたい傷もつて愛されようか横道なので横
- 35 身体だけで生きてみれば雪原の上も雪原だった
- 36 ここに光があつて水は光と気づくまでの鯨
- 37 存在からはじめようよくある火事をふりかざす
- 38 沿うままの氷柱をどうか会えませんかように
- 39 明けてもみぞれ風は呼吸と同じこと
- 40 触れることのない手が外套を脱ぐためにある
- 41 最大限雪うらないここであなたを無くしてみよう
- 42 それでも記憶あるから波はつづくよ春のはじめかた
- 43 みじかくたって別れだ春星を流れるように電車
- 44 未来たしかにミモザありそれを呼ばないための祈りも
- 45 もしもしはるさめ吐かれるものはだいたい息
- 46 もともと夢はよわいね下水をゆつくりただよう白魚
- 47 口から出ればことばも空気でしたぬるいたんぽぽ
- 48 百回言ったら会えるかもなあ空に春来て
- 49 悪夢その雨この際どこまでだって花見のさなか
- 50 知らないかなしみがさえずりの中でよみがえるの